

新聞記事に見る 徳島大学の地域貢献事業

ICTで地域活性化

徳大・NTT西が連携協定

徳島大とNTT西日本徳島支店は21日、ICT（情報通信技術）の活用で人材不足を解消し、地域活性化を目指す連携協定を結んだ。



協定書に署名する野地学長
左と佐々木支店長＝徳島市
新蔵町の徳島大本部

地域課題の一つである若年層の転出増加による働き手不足を解消するため、大

学が持つ学生情報をNTTが分析するなどして、人材育成やインターンシップの支援、人工知能（AI）を活用した採用マッチングシステムの構築などを行う。

徳島市の徳島大本部で21日に締結式があり、野地澄晴学長と佐々木保彰支店長が協定書に署名した。野地学長は「大学が注力しているスタートアップ（新興企業）にも協力してもらい、徳島を元気にする人材の育成、定着を進めたい」、佐々木支店長は「地元企業と若年層の接点を増やし、地域課題の解決につなげたい」と話した。

NTT西日本が圏内の大学と協定を結ぶのは7例目で、中四国では初めて。

（中野愛子）

令和2年10月22日 [徳島新聞]

移動式PCR検査施設

災害時活用へ協定

県・徳大・ジェイテクト



県立中央病院に配備された移動式PCR検査施設＝（ジェイテクト提供）

大規模災害時に被災者が集まる避難所などで迅速に新型コロナウイルスの検査を行い、感染拡大を防ぐと、県が移動式PCR検査施設を導入した。共同開発した徳島大、自動車部品メーカー「ジェイテクト」（名古屋市）と24日、利用などに関する協定を締結した。

施設は広さ約12・5平方メートルのトレーラー型で、けん引して移動できる。除圧設備のほか、外部で採取された検体を対面することなく受け渡す小型ドアが付いている。内部にはPCR検査装置があり、その場で感染の有無が分かる。

平時は県立中央病院（徳島市）に置いて患者のPCR検査に活用し、災害時には（牟岐町）にも、県立中央病院に以前置いていた移動式PCR検査施設を移した。

徳島市の県総合健診センターで開かれた締結式には飯泉嘉門知事と徳島大の野地澄晴学長、ジェイテクトの林田一徳事務役員が出席し、協定書を交わした。

（乾栄里子）

令和2年12月25日 [徳島新聞]

県と5教育機関 人材育成へ協定

県と県内の大学など高等教育5機関は8日、地域活性化に貢献する人材育成に関する連携協定を結んだ。県内の企業や自治体のニーズに応じた教育プログラムを実施し、学生の県内定着を目指す。

協定に参加したのは県と徳島大、四国大・四国大短期大学部、徳島文理大、徳島工業短期大、阿南高专。来年度から「情報処理」

「マネジメント」「デザイン・コミュニケーション」の三つのテーマで授業をするほか、企業へのインターンシップなどを行う。

具体的な目標として▽総受講者数を5年間で600人以上▽受講者の県内就職率100%▽就職後1年以内に離職する割合5%以下を掲げた。徳島大などは

10月、文部科学省の「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」に採択されており、協定はその一環。

（坂田佑耶）

令和2年12月9日 [徳島新聞]



中野晋教授

徳大・中野教授 総理大臣表彰 地域防災で助言

内閣府は9日、2020年防災功労者の内閣総理大臣表彰に徳島大の中野晋教授(64)徳島市八万町下福万を選んだと発表した。県内の個人が受賞するのは、五軒家徳島元海陽町長(15年)、村上仁徳島大名誉教授(17年)に続き3人目。

中野教授は、2020年防災功労者の内閣総理大臣表彰に徳島大の中野晋教授(64)徳島市八万町下福万を選んだと発表した。県内の個人が受賞するのは、五軒家徳島元海陽町長(15年)、村上仁徳島大名誉教授(17年)に続き3人目。

令和2年9月11日 [徳島新聞]

女性研究者活躍へ 環境づくり考える 徳島大でシンポジウム



大企業や大学の女性研究者が活躍しやすい環境づくりを考える「四国女性ダイバーシティ研究推進協議会」が主催する「女性研究者活躍へ環境づくりを考える」シンポジウムが18日、徳島大本館キャンパスの藤田節郎記念ホールであった。

徳島大や徳島大准教授らによるパネルディスカッションもあり、研究や家庭の両立や、国、大学の支援制度などについて意見を述べた。四国の5大学でつくる四国ダイバーシティ推進委員会が主催した。(中野晋子)

令和2年9月19日 [徳島新聞]

留学生 コロナ禍の日常



留学生らが撮影した写真の展示会—徳島市の徳島大日本会館

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、徳島大の留学生らがコロナ禍の日常を撮影した写真の展示会が19日、徳島市の徳島大日本会館で開かれた。留学生らは、インドやパキスタン、中国などから留学生生活を送る中で撮影した写真や動画などを展示した。写真には、マスクを着用した留学生の姿や、オンライン授業の様子などが写っていた。展示会は午後5時から午後7時まで開催された。(中野晋子)

令和2年12月22日 [徳島新聞]

牟岐の元旅館 徳大生が改修



竹でハンモックのスタンドを作るメンバー—いずも牟岐町中村

徳島大理工学部の学生でつくる建築サークルA.U.T.(アウツ)が、牟岐町中村の元旅館を町の交流拠点にしようと改修を進めている。町が依頼として関わっていた徳大生を通じて、今後、学生がサークルや町を相手として活動するほか、新型コロナウイルス収束後は町のイベントで活用する。

建築サークルが交流拠点に
耐震設備やデッキ整備

徳島大理工学部の学生でつくる建築サークルA.U.T.(アウツ)が、牟岐町中村の元旅館を町の交流拠点にしようと改修を進めている。町が依頼として関わっていた徳大生を通じて、今後、学生がサークルや町を相手として活動するほか、新型コロナウイルス収束後は町のイベントで活用する。

危険箇所マップ作製へ

徳大と住民 擁壁調査乗り出す

調査箇所	調査内容
徳島市八万町中津山団地	擁壁の状況を確認し、危険箇所を調査する。
徳島市八万町中津山団地	擁壁の状況を確認し、危険箇所を調査する。
徳島市八万町中津山団地	擁壁の状況を確認し、危険箇所を調査する。

令和2年11月13日 [徳島新聞]

徳大病院が遠隔病理診断 県内2病院と「ネットワーク」

徳島大は、吉野川医療センター(吉野川市)、阿南医療センター(阿南町)と「ネットワーク」を構築し、遠隔病理診断サービスを提供する。これは、徳島大の病理診断センターが、県内2病院と連携し、病理診断を行う。これは、徳島大の病理診断センターが、県内2病院と連携し、病理診断を行う。



ネットワークの概要を説明する上原医師—徳島市の徳島大大学院

病理診断 患者の体内から採取した病変の組織や細胞で標本をつくり、顕微鏡で観察してがんの有無などを判断する。病理診断を専門とする医師を病理医と呼ぶ。2018年度の県内の病理医は18人で、全国で9番目に少ない。徳島大大学院では年間9000件の病理診断を行っている。

令和2年5月28日 [徳島新聞]

徳大、認定看護師養成へ

徳島大は、在宅ケア分野の認定看護師を養成する教育課程を4月に開設する。医師に代わって一部の医療行為ができるようになる特定行為研修を組み込み、在宅医療を支える高度な看護人材の育成を目指す。同大によると、こうした教育課程の開設は全国で初めて。

在宅ケア分野 全国初

認定看護師は、救急感傷、患者のケア、在宅医療など、特定の看護分野に特化した看護を行う。徳島大は、在宅ケア分野の認定看護師を養成する教育課程を4月に開設する。医師に代わって一部の医療行為ができるようになる特定行為研修を組み込み、在宅医療を支える高度な看護人材の育成を目指す。同大によると、こうした教育課程の開設は全国で初めて。

令和3年1月28日 [徳島新聞]